

すこやかな成長に大切なこと

『子どもの頃の体験が大人になって
どのような影響を及ぼすか』に関する調査報告(要約)

兵庫県青少年団体連絡協議会 平成24年度調査研究

◇調査結果から導き出された「9つの提言」

子どもが多彩な場
面で多様な人々と
出会える場を作ろ
う

教師や教育活動に
あたる人は、もっ
と体験活動の大切
さに気付こう

家庭、地域に子ど
もの役割・出番を
作ろう

地域の活動や行事
に子どもを出来る
だけ参加させよう

地域の少年団体活
動に参加させよう

子どもに積極的に
野外遊びをさせよ
う

子どもの様々な体
験を日常化しよう

豊かな遊びで安全
能力を身につけさ
せよう

子どもに困難な体
験をさせよう

この調査に参加した方たちはこんな意識、行動を..

『自分をより高めたいという欲求は』86%が「ある」、60代はさらに高い。

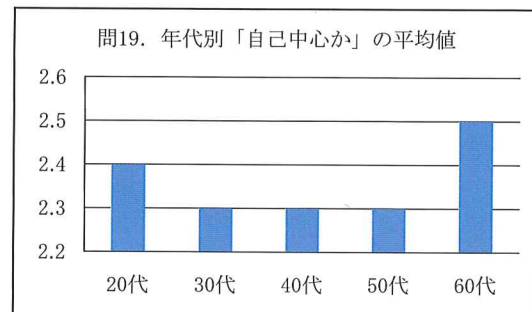
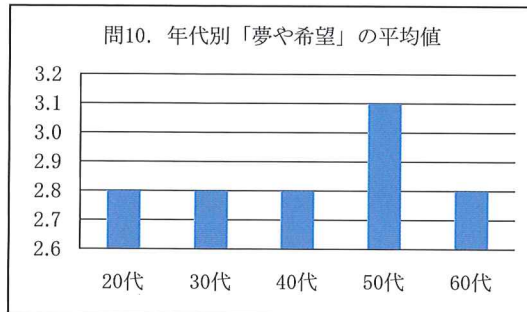
『努力を惜しまず、学ぶ姿勢をもっている』は年代が上がるほど高くなる。

『将来に夢や希望を抱いている』『家族を大切にしている』は50代が他の世代より高い。

『困っている人に声を掛ける』は84%がそうで、年齢に比例していっそう高くなる。

『義務や責任を進んで果たしますか』は95%が、また兄弟姉妹数が多いほど高くなる。

『わがまま自己中心的といわれる』は20代、60代が他世代よりは高い。



学校での学習、教育体験から

教育活動体験の効用は家庭や遊び体験と比較し、やや低い傾向を示している。しかし、その効用は年代が上がるほど概ね肯定的に評価されている。学校での厳しくも多様な体験は、若い頃には気付かなくとも人生経験を重ねるうちに、受け止め方が変わっていく。

〈効用が高い結果が示された体験例 *設問回答は4段階で平均値は2.5だが、3.0以上を積極的肯定と判断〉

- ・叱られることも多い「道草」 ⇒ 様々なものとの遭遇や発見があつて有益だった
- ・友達とのケンカや遊び ⇒ 協調性を学べたり、思いやりの心が身についた
- ・教師に褒められた ⇒ 自分の長所を知り自尊心が満たされた。褒められ(叱られ)体験は教師との豊かな人間関係を示す出来事と認識。褒められ体験の効果がより大きい
- ・当番や係など役割、責任の体験 ⇒ 責任感が身についた等と概ね肯定的。一人っ子には家庭生活では「お手伝い」未体験者もいることから、学校での体験は貴重なものに
- ・学校で与えられる宿題や課題 ⇒ その効用には30代にはやや低い評価が、ゆとり教育の影響か
- ・クラブ活動への参加 ⇒ チームワーク、責任感、達成感を味わえる体験だった
- ・運動会等、学校行事への参加 ⇒ 非日常活動に対する関心や期待感をもてた

家庭生活で育まれたもの

それは大人になっての思いに大きく影響し、役立っている実感が強い。家庭の生活習慣は「こころと絆の基盤」を育み、支え合いは「やさしい心」を育てている。またケンカや叱られ体験は、自らを見つめ直す成長のきっかけと認識され、清掃や行事など地域を体感する機会は地域への関心、愛着を育んでいる。子どもの成長期と重なる家庭生活はかけがえなく大切なものと捉え、また家庭のルールや約束体験は後の社会生活への移行がスムーズになる効果があると認識している。

〈効用が高い結果が示された体験例〉

- ・起床・食事・就寝などで規則正しい生活をおくった ⇒ 生活や健康に関する自律心が習得出来た ⇒ 現在、出来るだけ規則正しい生活をしている（これらには高い相関）
- ・家族で守るべきルールや習慣があつた ⇒ 社会のルールの理解や適応につながった
- ・家族の誕生日を祝った ⇒ 家族を大切にする思いの高まり ⇒ 現在、出来るだけ家族揃つての食事を心掛けている（これらにも高い相関）
- ・親にほめられたり叱られたこと ⇒ 自尊心を満たしたり、善悪の気付きを実感
- ・ナイフや包丁を使うこと ⇒ 道具の安全な使い方が身についた
- ・家族の看病、祖父母との同居体験 ⇒ 大切な家族の実感、高齢者へのいたわりや敬いの思い

〈その他〉

- ・食事、団らん、絆等、家庭生活の効用実感は女性の方が全項目で高く唯一、男性が高いのは「近所の人に叱られた」こと(女性の未体験率は男性の倍となっている)

□「遊び」から学んだこと

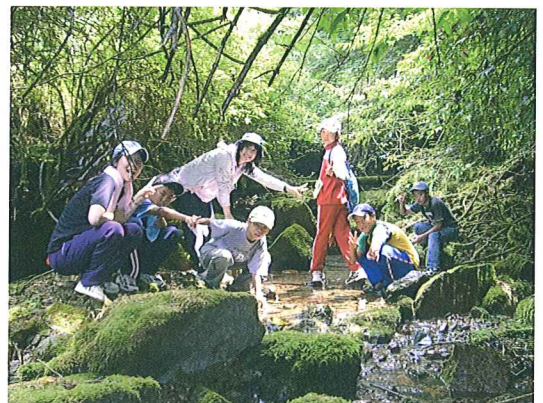
子どもの頃の遊び体験、その効用は全項目で高い数値となり「成長の糧」との認識は、大多数の大人たちの実感となっている。遊びを通じて人との関わりや協調性、リーダーシップが育まれ、冒険心や体力さらには集中力の高まり等からケガへの注意力や抑止力の向上、工夫や創造力の蓄積そしていたわりの心を育てること等につながっている。

〈効用が高い結果が示された体験例〉

- ・近所の仲良しとよく遊んだ ⇒ 協調性やリーダーシップを養う経験となった
- ・野外での遊び(虫採りや川、山での遊び) ⇒ 冒険心や体力が身についた
- ・遊びでケガをしたこと ⇒ ケガに対する注意力が身についた
- ・手作りのおもちゃで遊んだ ⇒ 何かを作り出したり工夫する力が身についた
- ・異年齢の子と遊んだ ⇒ ありがたみや我慢、手加減が自覚出来るようになった

〈その他〉

野外での遊びが冒険心や体力の向上に役立った、とするのは60代が最も高く、おもちゃを手作りして遊んだ人は、他世代との遊びにもよく関わっていたことも示された。また、子どもの頃の体験の豊かさは、大人になっての収入の多さに影響することは他の調査でも示されたが、仕事の意味や価値についての理解とともに、コミュニケーション能力や判断力、決断力等は集団で遊ぶ場面では常に刺激され、磨かれる可能性の高い能力ともいえるだろう。



□今回の調査のねらいと方法

子どもの頃の体験や活動が将来、どんなことに役立っているかを具体的に明らかにし、それらが今後青少年に関わる指導者や育成者の活動やその企画の際に効果的に生かされることをねらいとしている。

独立行政法人国立青少年教育振興機構による実態調査(平成18~22)と調査研究(同24報告)では、体験活動が多い程「自尊心感情」「共生感」「規範意識」が高いことや、成人後に社会的地位「最終学歴」「年収」等が高いことも示された。しかしその一方、この5年間で自然体験活動の体験率が減少している状況も明らかになった。

この調査の内容は、基本調査9問、現状調査21問、活動・体験効用調査42問で構成され「子どもの頃の体験(A)」が「大人になってどんな場面に、あるいは思いに至る事(B)」に役立った、生かされていると実感できるか、その「生かされ実感や関連性」を4段階で尋ねている。AがBという効果を生むかどうかの仮説に対し、本人の反応・検証を求めている。そして何よりも効果あり、となればその効用を意識した取組み姿勢こそが、我々に期待されていることになるのではないかと考えた。

○調査対象者：兵庫県内在住の20代から60代の成人260名(有効回答数225、回収率86.5%)

男女、年代、地域割合が平成23年の構成割合の実数を代表するように選んだ。

○調査方法：平成24年10月~11月2ヶ月の期間、対面直接、または郵送による返信解答。

□保護者、指導者、育成者のみなさんへ 「9つの提言」

1. 子どもが多彩な場面で多様な人々と出会える場を作ろう

いろいろな人たちとの出会い、関わりが心の基盤を作り、成長のきっかけを与えてくれる。

2. 教師や教育活動にあたる人は、もっと体験活動の大切さに気付こう

体験活動の意味や効用を理解し、生かされるよう情熱や期待をもって指導、育成活動を進めよう。

3. 家庭、地域に子どもの役割、出番を作ろう

役割や責任を果たす事は、人や周りに対し責任や誇りを実感し、喜ばれ求められる自分を経験する機会になる。

4. 地域の活動や行事に子どもを出来るだけ参加させよう

ご近所ぐるみの草引きや清掃、また行事やお祭り等は、地域を実感する貴重な機会。そこで様々な、地域で生きる人たちと出会える。地域の個性を知ることは住んでいる町への自信や誇りを持つことにもつながる。

5. 地域の少年団体活動に参加させよう

少子化時代、異年齢集団やグループ活動の体験は重要かつ貴重。そのチャンスを作るのは大人たち。

6. 子どもに積極的に野外遊びをさせよう

成長期に芽生える冒険心や創造性、それらを養う仲間との自然遊び外遊びを積極的に進めよう。

7. 子どもの様々な体験を日常化しよう

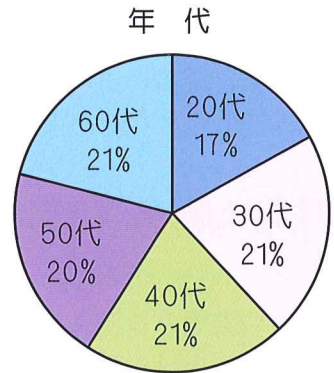
体験活動の日常化に向け、自然で自由な広場や環境、魅力あるプログラム開発、さらには指導者、育成者の養成が急務となる。

8. 豊かな遊びで安全能力を身につけさせよう

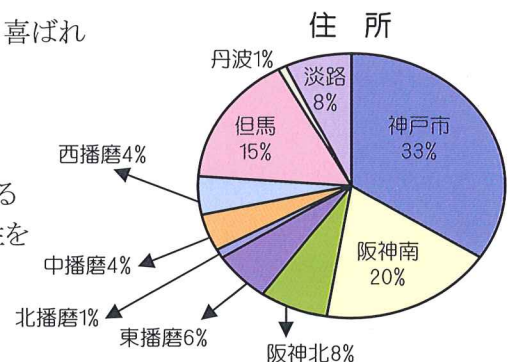
本気の遊びは注意力、集中力や気構えを高めてくれる、小さなケガが後の大けがを防ぐ知恵となる。

9. 子どもに困難な体験をさせよう

思考が育つには試行錯誤の体験が必要。困難に耐え乗り越える体験に大切なこと、それはやらなければならない活動ではなく、やりたい活動であることと、せっかちに手を出さない大人の見守り。



(回答者の状況)



青団連加盟22団体のキャラクター紹介です



□調査実施機関

兵庫県青少年団体連絡協議会

事務局 〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目16-3 兵庫県民会館 8 階

公益財団法人 兵庫県青少年本部 活動支援部内 ☎078(891)7410